

## エピソード62

子どもは「先生が好きだから  
甘えてる」という保護者がいます



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。エデュサポネットのファ  
シリテーターです。



小学校で学級担任をしている40代後半の先生の経験を紹介します。

私が担任している学級には、女性の先生の指示には耳を傾けず、授業中も机に突っ伏して学習に向かわないあきお君という男子児童がいます。

女性の先生は母親と同化してしまい、甘えてわがまま放題なのです。





保護者の様子はどうでしたか？

あきお君はやっとできた子どもで、一人っ子だったこともあってそれはそれは大切に育てていました。

お母さんは、あきお君が私になついていると思って「先生が好きだから甘えている」と特に問題を感じていないようでした。





先生はどうしたのですか？

困った私は管理職に相談しました。

すると管理職は「どうしても学習に向かわないときは、職員室で面倒をみましょう。職員室によこしてください。」と言いました。





保護者に対してはどうでしたか？

教頭先生から保護者にあきお君の様子を伝え、学校としてあきお君を見守り、成長を支援していきたいと話してくれました。

お母さんは少しびっくりされたようでしたが、学校にお任せしますと言ってくださいました。





実際にどのような対応をしたのですか？

以後、あきお君が何度声をかけても学習に向かえないときに限り、あきお君に職員室に行くように伝え、校長先生や教頭先生に対応してもらいました。

学習が遅れないように、学級と同じ内容で学習も進めてもらいました。





あきお君の様子に変化はありましたか？

管理職に個別で対応してもらった後は、不思議と、あきお君の気持ちが穏やかになりました。

そして、学級に戻って来てからも、落ち着いて学習に向かうようになりました。





あきお君のその後について教えてください。

そのような対応を繰り返す中で、  
「できた」→「ほめられる」→「さらにやる気を起こす」→「さらにほめられる」  
という好循環が生まれ、あきお君は大きな成長を遂げました。





先生は、この経験からどんなことを感じましたか。

子どもの様子を管理職から保護者に話してもらうこともできるんだと思いましたし、

管理職にサポートしてもらうことで、あきお君に私が落ち着いてかかわることができるようになったんだなと感じました。





## なみちゃんの一言

- 管理職の先生が担任の先生の話をして、相談にのってくれることで、担任の先生は安心することができるんだと思います。
- 担任の先生が落ち着いて子どもにかかわることができるようになるには、管理職の先生のサポートは大切ですね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保  
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)